

8 名栗地区まちづくり構想



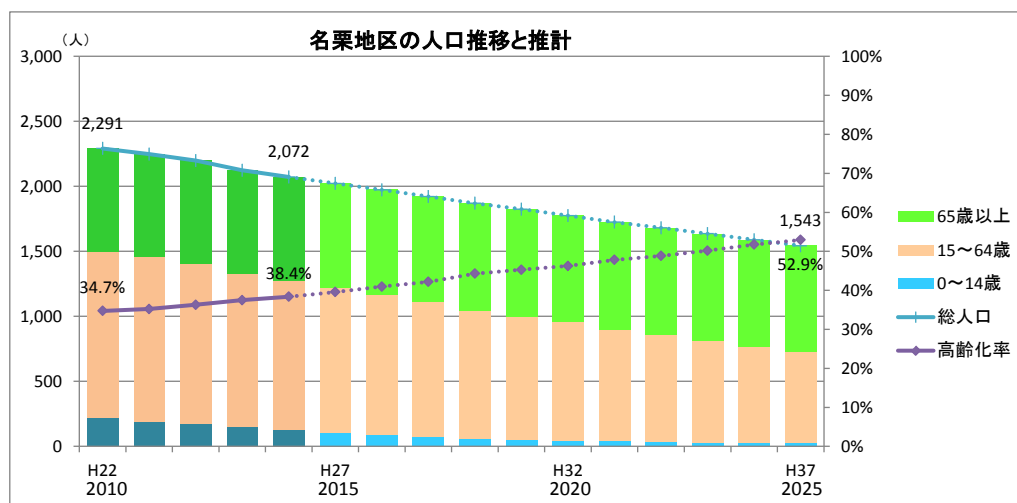
(1) 地区の概況

区域区分	面積	市街化区域 面積	市街化区域 面積割合	DID 面積	DID 面積 割合
都市計画区域外	5852.6ha	0ha	0%	0ha	0%
人口	世帯数	人口密度	H26 高齢化率	H37 高齢化率	
1,968人	901世帯	33.6人/km ²	38.4%	52.9%	

*人口・世帯：平成28年1月1日時点

*高齢化率：第5次総振

■地区別人口（第5次総振）



■地区の特性

- ◆日本三大林業のひとつ「西川材」の主産地
- ◆入間川沿いに集落が形成
- ◆清流保全地域
 - 【自然・地域資源】入間川・名栗湖・棒ノ嶺・蕨山・正丸峠・有間溪谷・有間溪谷観光釣場・名栗温泉・カヌー工房・名栗げんきプラザ・さわらびの湯・農林産物加工直売所・名栗湖直売所
 - 【歴史・文化遺産】下名栗諏訪神社・星宮神社・鳥居観音・名栗川橋・旧名栗郵便局
 - 【鉄道駅】—
 - 【生活拠点】名栗地区行政センター周辺

■地区の課題

- ◆清流の保全のために合併処理浄化槽の普及
- ◆公共交通の維持確保
- ◆豊富な観光・レクリエーション資源の活用
- ◆森林と共生する居住環境の形成
- ◆自然災害等に対する防災対策

(2) 地区まちづくりの目標

■まちづくりのキーワード

- ①地域資源を活用した交流するまちづくり
 - ▶豊富な観光・レクリエーション資源の活用
 - ▶郷土芸能の保全
 - ▶地域間の交流ネットワークの形成
 - ▶森林と共生する居住環境の形成
- ②清流を保全し、水辺を生かした快適なまちづくり
 - ▶合併処理浄化槽の設置促進と水質浄化
 - ▶入間川周辺の水辺環境の保全と活用
- ③地域の特性を生かした豊かな自然と共生するまちづくり
 - ▶自然環境の保全
 - ▶自然とふれあえる生活環境の形成
 - ▶情報基盤の整備と若年層や自然志向者の定住促進
 - ▶河川沿いの農村集落や山村集落の景観保全

(3) 地区まちづくりの方針

1) 土地利用の方針

①上名栗地区

- 名郷周辺は、西川林業により育まれた森林文化の雰囲気が残る環境を保全し、林業や歴史・文化を学び、体験する場として活用を図ります。
- 豊かな自然環境の中で暮らせる山村地域として生活環境の整備を進めるとともに、自然とふれあえる空間の創出を図ります。

②名栗地区行政センター周辺

- 名栗小中学校、名栗スポーツ広場、名栗診療所などが立地する名栗地区行政センター周辺を「生活拠点」として位置づけ、生活基盤の整備を進めるとともに、商店など生活利便施設の立地を図り、賑わいのある生活の中心ゾーンとしての形成を図ります。
- 名栗地区行政センター前の市道の歩行者空間設置や名栗スポーツ広場の充実、子どもたちが安心して過ごせる広場の確保などにより、安心・安全でスポーツ・レクリエーションを楽しむ生活環境の形成を図ります。

③下名栗地区

- 名栗湖をはじめとして、有間渓谷、名栗温泉、尾須沢鍾乳洞など自然資源の観光活

用を図るとともに、ハイキングを楽しむ来訪者に対するハイキングルートの情報や観光施設情報の充実を図ります。

- 森林地域にふさわしい自然景観の保全を図るとともに、観光施設の立地を促進し、自然と観光が調和した土地利用を進めます。
- 山村集落地は、環境と共生する生活形態を生かしつつ、生活基盤整備を進め、ゆとりある土地利用の推進を図ります。

④主要地方道青梅秩父線沿道

- 沿道集落地は、生活環境の整備を進め、周辺の豊かな自然環境と調和した土地利用を図りつつ、住宅需要に対応して適切な誘導を行うことにより、若年層などの定住に向けたゆとりと利便性のある居住環境づくりを推進します。
- 観光施設、サービス施設などの適正な立地を促進し、観光・サービス機能の集積を図るとともに、農産物の販売やイベントなどを行う場の充実を図り、産業振興に寄与する土地利用を図ります。
- 集落地の豊かな自然環境の中で暮らせる農山村地域として、また、だれでもできる農業の場を創出し、定住環境の形成を図ります。

【まちづくりのメニュー】

- ・生活拠点の関連施設と環境の整備、充実
- ・林業の歴史・文化・体験の場の保全と活用
- ・自然と調和した観光施設の立地促進
- ・自然と調和した居住環境と定住環境の形成
- ・ハイキングや観光情報とサービス機能の充実

2) 交通体系の方針

①地域の移動手段

- 交通事業者と連携して、重要な移動手段である路線バスの維持確保及び利用促進に努めます。
- 現行サービスの維持を図るためにも路線バスの役割を明確化し、市民の支持、利用促進を図ります。
- エコツーリズムや観光イベント等と連携し、来訪者や観光客によるバス利用を促進します。

②道路

- 主要地方道青梅秩父線
 - 見通しの悪い区間の走行性の向上を図るとともに、多くの交通量を処理する幹線道路として、ゆとりとうるおいのある道路空間を形成するよう整備を促進します。
 - 歩道の未設置区間を解消し、歩行者が安心して通行できる道路空間としての整備を

促進します。

●**県道南川上名栗線**

○吾野地区との連絡や観光ルートとしても重要な一般県道南川上名栗線は、車道拡幅などの改良整備を促進し、走行性の向上を図ります。

●**(仮)名栗グリーンライン**

○主要地方道青梅秩父線と有間峠を結ぶルートをも(仮)名栗グリーンラインと位置づけ、歩行者にも安全で観光ルートにふさわしい道路空間の整備を促進します。

○(仮)名栗グリーンラインと名栗湖(有間ダム)の周遊道路を活用したサイクリングコースを設定し、眺望や水辺を楽しむ観光ルートの形成を図ります。

【まちづくりのメニュー】

- ・公共交通の維持確保
- ・歩行者が安心して通行できる道路空間の整備

3) 水と緑のまちづくりの方針

①入間川

○清流及び河岸環境の保全を図るとともに、市民生活と結びついた身近な空間として、また、来訪者と交流する空間として親水性の高いふれあいの場が形成されるよう整備を促進します。

○各所に点在する河川敷などを活用したキャンプ場やバーベキュー広場を充実し、市外からの利用者の観光レクリエーションの場として、また、住民との交流の場としての形成を図ります。

②名栗湖周辺

○名栗湖周辺を「水と緑の交流拠点」として位置づけ、清流環境を生かした観光振興を促す中心ゾーンとしての形成を図ります。

○さわらびの湯の活用を促進し、住民・観光客の憩いや環境学習など自然体験の場として、また、水辺に親しみ、レクリエーションの場となる親水空間として充実を図ります。

③水と緑のネットワーク

○「都市回廊空間」と山間地をネットワークする「水と緑の交流」をまちづくりの新基軸に据え、自然環境と都市環境が融合・調和するまちへの転換を図ります。

○入間川や名栗湖、有間溪谷、鳥居観音、名栗川橋、諏訪神社など地域の名所・史跡を巡り、吾野地区、原市場地区にもつながるルートを自然・歴史・文化を楽しむ散歩道として設定し、回遊性のあるネットワーク形成を図ります。

○正丸峠、伊豆ヶ岳を結ぶルートや有間峠、武川岳を結ぶルートは、尾根筋のルートとしてやまなみの眺望を楽しむ場の確保を図り、眺望を生かした道づくりを検討します。

- 観光客が安全・快適に楽しむことができるよう、指導標の設置やサイクリング環境の整備、ハイキングコース、観光トイレ等の整備を推進します。
- 山あいの家々を訪ねるふれあいツアーなど、地域の生活文化や伝統を生かすエコツアーリズムが展開できる住民活動の場を確保し、交流を促す環境の創出を図ります。

【まちづくりのメニュー】

- ・水辺環境を生かした親水空間の創出
- ・アウトドア関連施設を観光レクリエーション、交流の場として活用
- ・「都市回廊空間」と「水と緑の交流拠点」の活性化と融合

4) 景観に配慮したまちづくりの方針

- 景観間伐など入間川の源流地域としての自然景観を保全するとともに、間伐材の有効利用を図りつつ、広葉樹の植林による水源かん養機能の向上や眺望と自然を生かした観光機能の向上を図ります。
- 豊かな自然景観や製材所の材木などの景観の活用により、景観に配慮し、自然環境や農林業環境が調和した林業・観光のまちを感じる街並みの形成を図ります。
- 西川材などの地域資源の活用により、後背地の自然景観と調和した集落地景観の形成を図ります。
- 西川材を使用した住宅等の建築や板塀の設置に対し補助金を交付し、木のぬくもりや地域の個性を感じる景観形成を図ります。
- 幹線道路沿道は広葉樹化を進め、四季を感じる自然景観の創出を図ります。
- 豊かな自然景観や街並み景観の保全と創出を図るために、景観計画の策定を検討します。

【まちづくりのメニュー】

- ・自然環境と調和する街並み景観の形成
- ・歴史的建造物や西川材を利用した景観まちづくり

5) 安心・安全なまちづくりの方針

- 合併処理浄化槽の設置促進など、地域の状況に応じた排水処理により水質汚濁を防止し、河川・水路などの多様な水辺環境の保全を図ります。
- 未給水地区への対応として、山間地域給水施設整備等補助金制度の啓発に努めます。
- 空き家に対して、市と民間、地域が連携し、地域に適した空き家の利活用を図ります。また空き家の実態把握に努め、維持管理を所有者に促すなど、適切な対応を図ります。

- 女性や若い世代が安心して子育てができるよう、地域コミュニティ機能を強化し、地域全体での子育て支援を図ります。
- 緊急輸送道路沿道の建物の耐震・不燃化を促進し、緊急用の輸送道路や避難路を確保します。
- 地すべり、斜面崩壊などの土砂災害に対する治山・治水事業を促進するとともに、農林行政と連携し、土砂災害などを未然に防ぐ総合的な施策の展開を図ります。
- 危険区域の周知、警戒避難体制の充実を図りつつ、開発防災マップを活用し、山間地、丘陵地における急傾斜地の開発を抑制し、土砂災害の軽減を目指し安全な住環境整備を進めます。
- 地区行政センターほか地区内にある公共施設等の将来の活用形態や適正規模を見据え、地域住民の生活・活動拠点の整備・配置を検討します。
- 「第2次飯能市環境基本計画」に基づき、太陽光や太陽熱、バイオマス等の再生可能エネルギーの住宅や公共施設への導入を促進します。

【まちづくりのメニュー】

- ・ 合併処理浄化槽の設置促進と水辺環境の保全
- ・ 未給水地域の給水施設整備のための補助金制度の活用
- ・ 緊急輸送道路沿道の建物の耐震・不燃化を促進
- ・ 地域ぐるみの子育て支援
- ・ 自然災害等に対する防災対策
- ・ 再生可能エネルギーの導入促進



■名栗地区まちづくり方針図

